石油化学工業協会

２０２４年６月実績概要（メモ）

（２０２４．７．１８）

エチレンをはじめ各誘導品の定修が集中し、マイナス幅が大きめの品目が目立つ。

１．生　産　動　向

イ）エチレン　３５７，１００トン

前　月　比　　▲１０．０％（▲３９,９００トン）
前年同月比　　▲　６．７％（▲２５,７００トン）

生産増減に係る諸要因	＜前　月　比＞	＜前年同月比＞
日数増減	▲　３．２　％	－
定修要因等	▲　２．８　％	▲　７．４　％
能力増減	－	－
稼働率変動	▲　４．０　％	＋　０．７　％
生産増減率	▲１０．０　％	▲　６．７　％

稼働プラントの実質稼働率試算：前月　８０．４％* → 当月７７．６％ ← 前年同月７７．１％
定修プラント：前月　３社３プラント　→ 当月　２社２プラント　← 前年同月　１社１プラント

ロ）主な石油化学製品

前月比は、日数の減少や定修規模差等からLDPE、PP、MMAモノマー、EG、AN、SBR、BR、ベンゼン、キシレンなどの１３品目がマイナス。PS、SMなどの４品目はプラスとなった。
前年比は、定修規模差や稼働率要因から、LDPE、PP、塩ビ樹脂、EO、EG、SBR、キシレンなどの９品目がマイナス。HDPE、PS、SM、AN、BR、トルエンなどの８品目はプラスとなった。

２．樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ）生　　産

前月比は、日数減に加えて、定修規模差や稼働率要因から、LDPE、HDPE、PPはマイナス。PSは主に稼働率要因からプラスとなった。
前年比は、定修規模差や稼働率要因等からLDPE、PPはマイナス、HDPE、PSはプラスとなった。

ロ）国内出荷

消費マインドは、前月に比べてはやや改善が見られるも、足踏みの動きが続いている。国内の生産活動は、６月は、輸送機械関連などで低下予測がだされている。また、生産活動のマインドとしてもこれまで強気面が優勢であったが、この傾向にもやや鈍化が見られている。
汎用樹脂の出荷は、連休があった前月に対し、ユーザー側の営業日数の増加もあり、LDPE、HDPE、PP、PSの４樹脂でプラスとなった。前年比は、LDPE、HDPE、PPはマイナスとなり、近年の６月の出荷としては低調な出荷となった。他方、PSは前月に続いてプラスとなった。
分野別の出荷状況としては、前月にLDPE、PPの包材分野での出荷の増加が見られたが、当月は、LDPE、HDPE、PPのフィルム分野はいずれもマイナスとなった。
包材以外の分野では、LDPE、HDPEはほとんどの分野の出荷がマイナス。PPは、射出成形分野が２カ月ぶりにマイナスとなったほか、これ以外の分野でもマイナスとなった。
PSは電機・工業分野は依然マイナスとなったが、雑貨・産業用分野、FS分野はプラスとなった。

ハ）輸　　出

原油、ナフサ市況が横ばいで推移する中、アジア域内の樹脂製品の市況は製品によって濃淡が入り雑じっている。前月比は、LDPEは供給とのバランスもありマイナス、PP、PSはプラス。前年比は、LDPE、HDPEはマイナスだが、PP、PSはプラスとなった。

ニ）在　　庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDE、PP、PSとも減少したが、在庫率(季節調整済）は、LDPE、HDPE、PPは上昇し、PSのみは低下した。在庫水準としてはLDPE、HDPE、PP、PSのいずれも高めの水準となった。

	前月対比増減量（単位:トン）	季節調整済在庫率（単位:ヶ月）	
		５月末	６月末
LDPE	▲３０，６００	３．３	３．５
HDPE	▲　８，８００	３．４	３．８
Ｐ　Ｐ	▲６１，５００	３．２	３．３
Ｐ　Ｓ	▲　７，４００	１．８	１．７

前月からの修正を*で付記

以　上